

東海地域経済懇談会へ参加（2/4）

～田中副会長が三重県連代表として報告～

東海商工会議所連合会、（一社）日本経済団体連合会、（一社）中部経済連合会の共催により、令和2年2月4日（火）『デジタル技術を活かし、人間的な幸福な暮らしと社会課題の解決を』をテーマに、ホテルナゴヤキャッスルにて東海地域経済懇談会が開催され、田中彩子副会長（鈴鹿商工会議所会頭）ほか専務理事が参加しました。

懇談会は「テーマ 1 活力ある地域づくり」と「テーマ 2 産業競争力の強化」について、それぞれ問題提起と意見交換が行われ、三重県連を代表して田中副会長が「産業振興に重要な道路整備と四日市港整備」について、以下の通り報告しました。

デジタル技術を活かし、人間的で幸福な暮らしの実現と社会課題の解決を 東海地域経済懇談会



▲ 東海地域経済懇談会の様子

▲ 代表報告をする田中会頭（右）

『昨年3月に、新名神高速道路三重県区間が開通し、東名阪自動車道の渋滞は解消され、物流の効率化による生産性の向上だけでなく、新名神・東名阪とのダブルネットワークとなり、地域防災力の強化と、広域的な救急医療体制の強化がされた。鈴鹿市においては、国内外から生産拠点を移転する動きや新規企業の立地の動きも多いことから、渋滞解消がこうした動きを一層加速するのではないかと期待している。また、リニア中央新幹線の「三重・奈良・大阪ルート」が整備されると、首都圏・中部圏・関西圏が一体化したスーパー・メガリジョンが実現することから、この巨大経済圏域に埋没することなく、継続的に発展をしていくには、ものづくりの力・観光資源に磨きをかけ、地域性・独自性を発揮するために、中部空港・名古屋港・四日市港と新名神・リニア中央新幹線を一体的に整備運用していく必要がある。』

とりわけ、四日市港は、貨物の総取扱量が堅調に推移しており、2年連続で過去最高となっている。また、霞ヶ浦地区では、貨物取扱量の増加に伴う機能強化と埠頭再編ならびに災害対応力の強化のため、新たな耐震強化岸壁の整備に向け、官民一体となった取り組みを進めている。』と述べられた。

経団連からは、『産業振興と防災の観点からも社会基盤整備は極めて重要である。また、海外でも関心の高いリニア中央新幹線整備が停滞することは座視できない』と発言があった。